

サギソウ *Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有度階級 2。貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

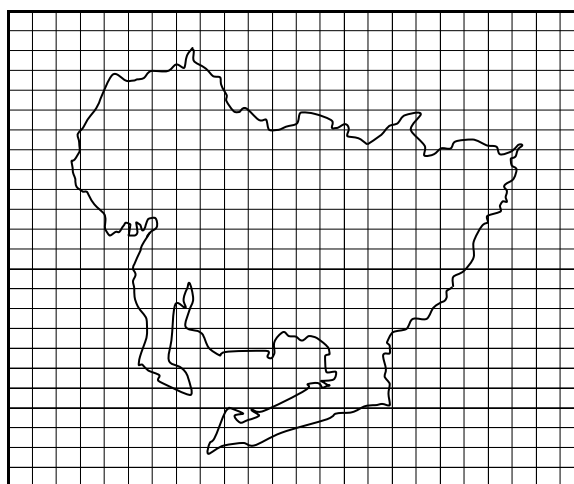
多年生草本。地下に走出枝があり、その先端に楕円形で長さ 7~15mm の球茎をつける。茎は直立し、高さ 15~40cm になる。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除いて 3~5 個が互生し、葉身は広線形、長さ 5~10cm、幅 3~6mm、先端は鋭頭、基部は葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状となる。花期は 7~8 月、花は茎の先端に 1~3 個つき、直径約 3cm で白色、苞は卵状披針形、長さ約 5mm である。がく片は緑色、広卵形または斜卵形、長さ約 8mm、側花弁は白色で斜卵形、背がく片と並んで立ち、下部外縁に鋸歯がある。唇弁は大きく 3 深裂し、中裂片は披針形、側裂片は側方に開出して斜扇形、辺縁は深く細裂する。距は斜めに下垂し、長さ 3~4cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手(芹沢 56016)、豊川宝飯(芹沢 56115)、豊橋北部(芹沢 56301)、旭(小林 57832)、足助(芹沢 55961)、藤岡(芹沢 55987)、豊田東部(芹沢 60059)、豊田北西部(芹沢 77971)、三好(芹沢 53091)、額田(小林 53063)、岡崎北部(芹沢 52786)、岡崎南部(芹沢 52802)、幸田(芹沢 53263)、刈谷知立(芹沢 41745)、瀬戸尾張旭(芹沢 76141)、日進長久手(半田多美子 3170)、豊明東郷(芹沢 59863)、東海知多(岡島錦也 816)、犬山(芹沢 60253)、小牧(日比野修 4134)、春日井(芹沢 56242)、名古屋北部(鳥居ちえ子 479)、名古屋南東部(芹沢 56194)、設楽西部(川向、芹沢 55923, 1990-7-25)にもあったが絶滅した。上記区画のいくつかでもすでに絶滅した可能性がある。渥美半島と知多半島中南部では未確認である。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島。

【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

白鷺に似た美しい花をつけるランで、園芸目的で多量に採取され、全国的には絶滅状態の場所も少なくない。愛知県では現在のところまだところどころで観察できるが、園芸目的の採取や丘陵地の開発により、過去に比べれば大きく減少している。地下に子球をつけるため、繁殖力は比較的旺盛であるが、増加したと思って見ていると、ほとんど全部掘り取られてしまうことも多い。

【保全上の留意点】

本種の場合、人工的な供給方法が確立されており、市場価格もそれほど高いものではないが、それでも山採りは止むことがない。大量に安価に供給すれば園芸目的の採取はなくなると思うのは、幻想にすぎない。自然の花と庭の花は別のものと考えることが必要で、そうでない限り、現在はまだまだかなりある本種も、いつかは絶滅させられてしまう。

その一方で本種は、消えゆく湿地性植物の代表として、しばしば自然湿地への植え戻しが行われている。しかし、植え戻しはその場所にまだ残存している他の植物に大きな打撃を与えるだけでなく、しばしば遺伝的汚染や病虫害の導入を招き、そこに残存している自然個体群に対する「最後のとどめ」になる。人為的な付け加え行為は、たとえ善意から出たものであっても、自然に対する大きな脅威であることを忘れてはならない。本種なら、生育できる条件を壊さずに気長に待てば、そのうち自然に分布を拡大してくるはずである。

【関連文献】

保草本 p.7、平草本 p.193、SOS旧版 p.111 + 図版 18、環境庁 p.615、SOS新版 p.111,113.